



(写真：石見まちづくりセンター防災事業)

まちづくり コーディネーター 通信

目次
P1.まちづくりコーディネーターの令和6年度取組状況
P2.協働のまちづくりフォーラム
P3.新まちづくり推進委員会の活動報告
P4.新まちづくり推進委員会の活動報告
コーディネーターのつぶやき

第13号
令和7年3月発行

令和6年度 > 令和7年度



まちづくりコーディネーターの令和6年度取組状況

年度当初に掲げていた取組について、5名のまちづくりコーディネーターが連携し、地域の声を伺いながら以下の取組を進めました。

01 まちづくり推進委員会の設立



▶市内の5か所において、地区まちづくり推進委員会の設立に向けた会議等を定期開催し、地域の皆さんと様々な意見交換とまちづくりの課題解決に向けた話し合いを行いました。設立間もない地区まちづくり推進委員会の定例会への出席や事業企画のアドバイスなど伴走支援を行いました。

02 まちづくり活動推進



▶まちづくりコーディネーターの専門分野を活かした「まちづくりコーディネーター派遣」により、地区まちづくり推進委員会・まちづくりセンターから会議への出席やまちづくり推進計画の更新、イベントの検証など100件以上の派遣依頼があり、よりきめ細やかな対応に繋がりました。

03 コーディネーター活動情報発信



▶SNS及び紙媒体を活用し、情報発信に取り組みました。SNSは定期的な投稿により、着実にフォロワー数を増やし、活動の可視化に努めました。まちづくりコーディネーター通信については、計画どおり年4回発行し、地区まちづくり推進委員会の設立支援を行う町内会に配布するなど、コーディネーター通信を有効的に活用しました。

引き続き協働のまちづくりの推進に取り組みます！

04 地区や地域を超えた連携づくり



▶担当地域のニーズ把握を行い、コーディネーター間での情報共有を行なながら地域を超えた連携や交流を進めました。一つのセンターエリアに複数の地区まちづくり推進委員会が存在する地区(浜田地区、石見地区、国府地区)において、地区まちづくり推進委員会が顔を合わせる連絡会議等を開催し、市街地と山間地での課題の違いや活動内容について意見交換をするなど、まちづくり組織間での情報共有を図りました。



2月2日(日)に令和6年度浜田市協働のまちづくりフォーラムが開催されました。地域課題の解決や活性化に向けて、多様な主体と連携・協力しながら協働のまちづくりを進めている市内のまちづくり活動団体等、4団体が発表されました。

1 実践発表
発表者

折居駅100周年記念イベント

大麻地区まちづくり推進委員会



折居駅100周年の節目を盛り上げるため、浜田市の課題解決特別事業を活用し、地域住民、大麻地区まちづくり推進委員会、大麻まちづくりセンター、企業が連携した取組について発表されました。

→当日は大麻地区にゆかりのある、さだまさしさんから届いた色紙も展示されました。

2 実践発表
発表者

キミたちの提案を地域で実現しよう！

旭地域まちづくりセンター連絡会・旭中学校

旭中学校の生徒が授業で学んだ旭地域の良いところや課題をもとに、ふるさと旭を盛り上げるための提案を行いました。この提案をもとに、まちづくりセンター等と連携し、実際に実現した取組について発表されました。



3 実践発表
発表者

・Monkfish～アンコウをどんちっち三魚よりも広げよう～
・浜っ子イングリッシュ神楽キャラバン

浜田市内県立高等学校

水産高校の生徒は、水揚量全国2位のアンコウを有名にし、水産業をより活性化したいという思いで取り組まれた活動について発表されました。



また、浜田高校の生徒は子供たち自身の世界が広がって欲しい、外国の方々にも石見神楽の魅力を知ってもらいたいという思いから、神楽の口上を英語訳にしたイベントを開催したことについて発表されました。

4 実践発表
発表者

学生の地域活動における移動支援のアクションリサーチ

—「行きたいのに行けない」現状の改善を目指して—

島根県立大学

交通手段が無いことで、地域活動に行きたいが行けないという大学生の現状改善に向け、調査・研究を行い、学生版のあいのりタクシーを実現するための取組について発表されました。



今回の発表では、多様な団体等が連携した協働事例がありました。地区まちづくり推進委員会、地域住民、企業、学校、行政が協力し合い、協働による持続可能なまちづくりを目指しています。



新 令和6年度に私たち設立しました!! まちづくり推進委員会の活動報告

- 01 濑戸ヶ島まちづくり委員会
- 02 大辻町連合会
- 03 黒川まちづくり委員会

01

瀬戸ヶ島まちづくり委員会 一浜田市瀬戸ヶ島町一

情報共有する活動で関心と関与を深める

瀬戸ヶ島町3町内が瀬戸ヶ島まちづくり委員会(以下瀬戸ヶ島まち委)を設立され1年を迎えられます。これまでの主要な地域活動は新組織設立後も「地域活性化事業」としてしっかり継続されており、神楽、敬老会、子ども会、グラウンドゴルフなど地域のまちづくり活動の中心になっています。

75才以上の住民を招待し和んで頂く敬老会では、町内の皆さんにも来場の声を掛け一緒に神楽鑑賞を行い、集えて楽しめる敬老会を催されました。



また、今年度は「浜田市総合防災訓練」に加え、11月に瀬戸ヶ島町を含む市内9町内を対象に「浜田市津波避難訓練」が実施されました。この訓練を瀬戸ヶ島まち委の事業として実施され、
当時は全世帯の8割が、水産高校とマリン大橋に避難されました。事前の『参加意向調査表』により参加の有無、避難訓練時の支援の要・不要等の情報共有の上で臨まれた事で高い参加率となりました。



毎月の役員会では様々な情報が共有されています。その案内や出欠は設立直後から携帯電話のショートメッセージを活用するなど関係者の負担軽減が図られています。今後も情報共有を基にした地域活動に期待しながら伴走を続けたいと思います。

02

大辻町連合会 一浜田市大辻町一

いざつ!!という時!元気な足で逃げましょう



大辻町連合会は今年度、防災、防犯、健康など地域住民の関心が高い事業を計画されました。

防災事業として、11月の浜田市津波避難訓練に大辻町連合会として参加し、避難行動について確認されました。

健康教室を全5回開催し、それにあわせて「認知症予防」や「防犯教室」、「スマホ教室」など様々な

企画を実施されました。開催に当たっては、介護予防インストラクターの吉川優子さんや市の関係部署、チラシ制作などは浜田まちづくりセンターの協力を得ながら実施されました。この教室では回を重ねるごとに笑顔が増え、歌声は大きくなり集う事の楽しさが伝わってきました。

インドアモルック交流会では初めての方も参加され、スキットが倒れるたびに笑い声があがり、楽しい雰囲気があふれています。

来年度も地域の皆さんの学びの場、集いの場となる事業が計画されるでしょう。多くの皆さんに参加されることを願っています。





03

黒川まちづくり委員会 一浜田市黒川町一

一けんこうマージャン

健康麻雀



健康麻雀はシニア層や中高年を中心にブームとなっており、健康づくりや仲間づくり、生きがいづくりに役立つと言われています。

経験者が指導者となり、ホワイトボードに解説を書きながら、初心者の女性チームに麻雀パイの模様や数を合わせながら解説をされていました。いろんな役をそろえるには程遠い段階ですが、時折笑い声も聞こえてきました。ゲームの合間ににはお茶とお菓子と体をほぐす体操が入り、まさに健康麻雀の数時間は、指先を使い頭を使うので認知症予防になりそうです。

初の試みに、アンケートの回答は良好なご意見が多く、「毎週でもやって欲しい」との声もあるほどでした。雀卓を更に増やして継続していかれるそうです。

「元気が一番、元気があれば何でもできる！」アントニオ猪木の名言を思い出しました。みんなで楽しく元気に暮らせるまちづくりが始まったばかりの黒川町ですが、今後がますます楽しみですね。



あれから数年経た。
この日を想う度に
言い知れぬ温もりに包まれて
いる。（文・大屋マサ子）



小春日和の十一月。いつもどおりペットシートを取り換えていた。
目に飛び込んできた♥型の尿痕に思わず息をのみ、驚きと感動で心が震えた。見事な♥型にすっかり気持ちを奪われ、手は止まつたままだった。ふと、感じた空気に振り返ると横たわる動かない主がそこに一。

平成十年十月、保健所で生後二ヶ月の仔犬との縁を得た。旧暦名から「カンナ」と名付けて以来、先住犬達を交えたハートフルな暮らししが日常となっていた。時が流れ、目が届き易い居間に一畳程のゲージを設えペットシートを敷き詰めたのは九年目の夏頃だった。わんこの「いのちの時間」は濃密で高速だということを、改めて受け容れる夏にもなった。

「♥の贈り物」

マークはなぜか心を和ませる。可愛、感謝などから伝わる思いは絵文字でも馴染み深い。忘れられず大切にしている特別な♥マークがある。

つぶやき

LOVE

【依頼申請コード】



浜田市地域政策部

まちづくり社会教育課

【電話】 0855-25-9201

0855-25-9007

(まちづくりコーディネーター執務室)

【FAX】 0855-23-1866

【メール】 machizukuri@city.hamada.lg.jp

